■飯南町の現状

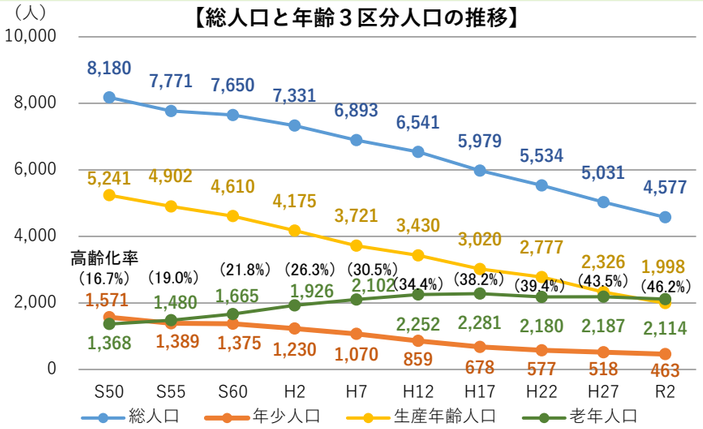
資料４

（1）飯南町の人口に関する動向

■人口の推移

●昭和 50 年から令和 2 年にかけて、**総人口が約 3,600 人減少**（44%減）し、**4,577 人**となっている。平成 22 年からの **10 年間で 1,000 人減少**している。

●同期間の年齢 3 区分別人口を見ると、老年人口は平成 17 年までは増加、以降は現状維持で推移しており、生産年齢人口、年少人口については一貫して減少し続けている。
老年人口は昭和 50 年から**約 1.5 倍増加**、逆に**生産年齢人口は約 6 割減少**し、ほぼ同水準となった。
年少人口の減少幅は大きく、**約 7 割・約 1,100 人減少**した。

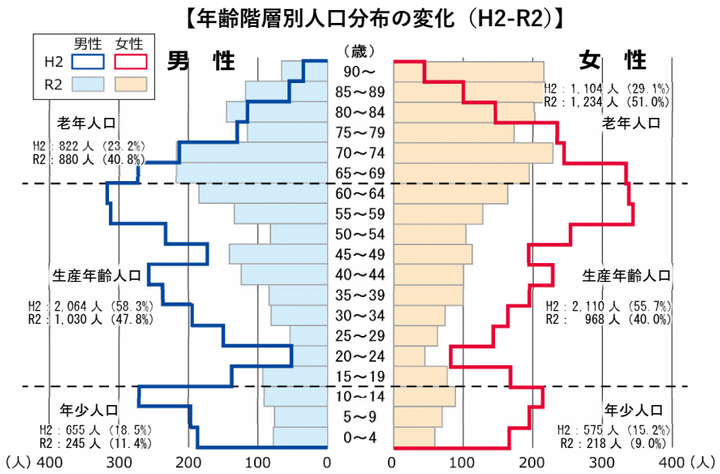


■年齢階層別人口の変化(30 年前と比較)

●平成 2 年は、男女とも生産年齢人口は 6 割弱で、55 歳～64 歳の世代の割合が高い。高齢化率を見ると、男性 23.2%、女性 29.1%であった。

●令和 2 年には、**少子高齢化により、年少人口・生産年齢人口が減少し老年人口の割合が増加**している。
男性の**高齢化率**は 40.8%に、女性の**高齢化率**は 51.0%と**大きく増加**しており、70 歳～75 歳の団塊の世代の人口が多くなっている。

●高校を卒業し進学・就職をした 20 歳～24 歳の世代の人口は、30 年前の時点でも少なく、多くの若者が町外へ転出していたことがうかがえる。



	男性		
	H2	R2	増減率
老年人口	822	880	7.1%
生産年齢人口	2,064	1,030	-50.1%
年少人口	655	245	-62.6%
総人口	3,541	2,155	-39.1%

	女性		
	H2	R2	増減率
老年人口	1,104	1,234	11.8%
生産年齢人口	2,110	968	-54.1%
年少人口	575	218	-62.1%
総人口	3,789	2,420	-36.1%

	男女計		
	H2	R2	増減率
老年人口	1,926	2,114	9.8%
生産年齢人口	4,174	1,998	-52.1%
年少人口	1,230	463	-62.4%
総人口	7,330	4,575	-37.6%

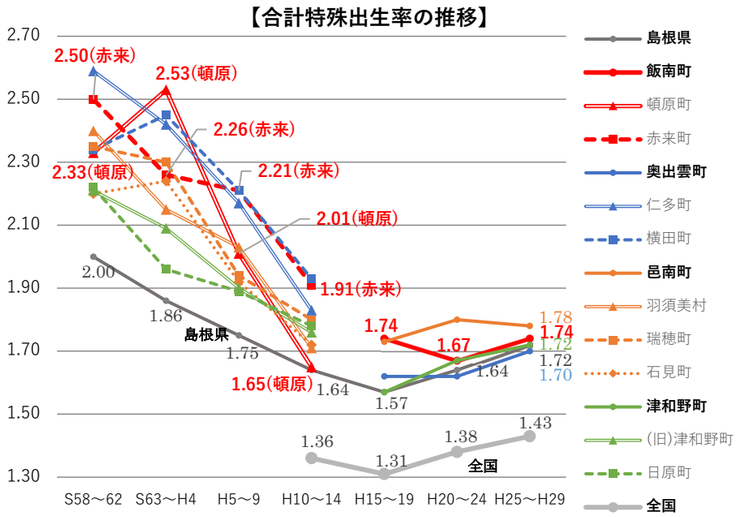
■合計特殊出生率の推移

●昭和 58～62 年では**赤来町で 2.50、頓原町で 2.33 と高い値**であった。

●平成 14 年まで**赤来町は県平均や類似自治体より高い水準で推移**していたが、**頓原町は平成 14 年に県平均と同水準まで低下**した。

●平成 15～19 年にかけて 1.67 まで大きく低下、**平成 25～29 年には増加傾向に転じ 1.74** となった。この値は島根県平均を 0.02 上回っており、**県内 19 市町村のうち 10 番目の値**となっている。

【参考】
県内で最も高い自治体：隠岐の島町 1.91
県内で最も低い自治体：安来市 1.63

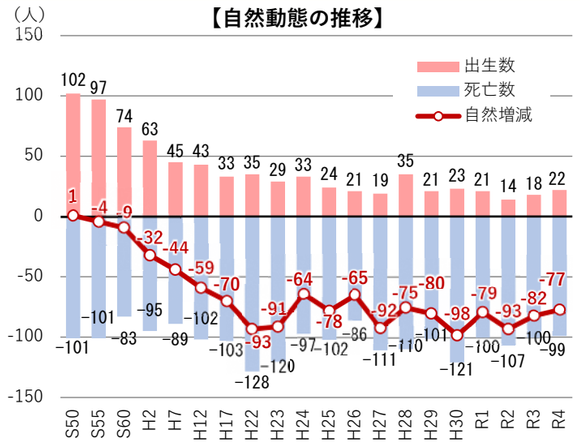


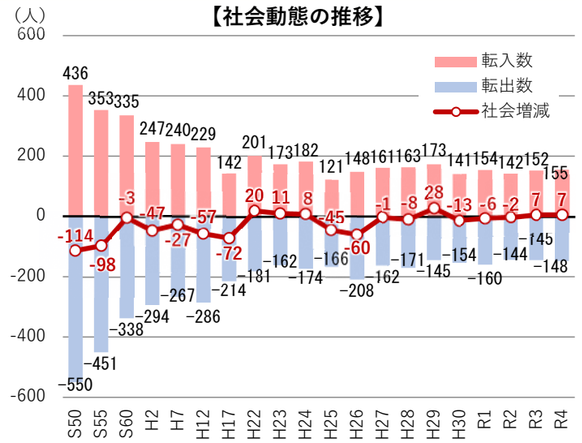
■人口動態

●「**自然動態**」については、**昭和 55 年から一貫して出生数が死亡数を下回る自然減**となっており、近年は年間 80 人～100 人程度の減少が続いている。**出生数**は昭和 55 年から平成 7 年にかけて半減し、以後も減少傾向が続き、**平成 29 年以降は 20 人前後で推移**している。一方で、**死亡数は現在まで概ね 100 人程度で推移**している。

●「**社会動態**」は昭和 50 年～55 年までは多くの転出があり、100 人程度の転出超過であったが、昭和 60 年から平成 17 年は、増減があるものの 3～70 人程度まで転出超過は減少した。平成 17 年以降は、転入超過となった年も見られ、**令和元年以降は転入数と転出数が均衡し、一桁台の社会増減で推移**している。

●飯南町の社会増減は平成 30 年～令和 4 年の 5 年間で－7 人であり、**総人口に対する社会増減率を見ると県内 19 市町村のうち 4 番目**の値となっている。（1 位知夫村＋4.1%、2 位海士町＋3.5%、3 位出雲市＋1.6%、4 位飯南町-0.2%）



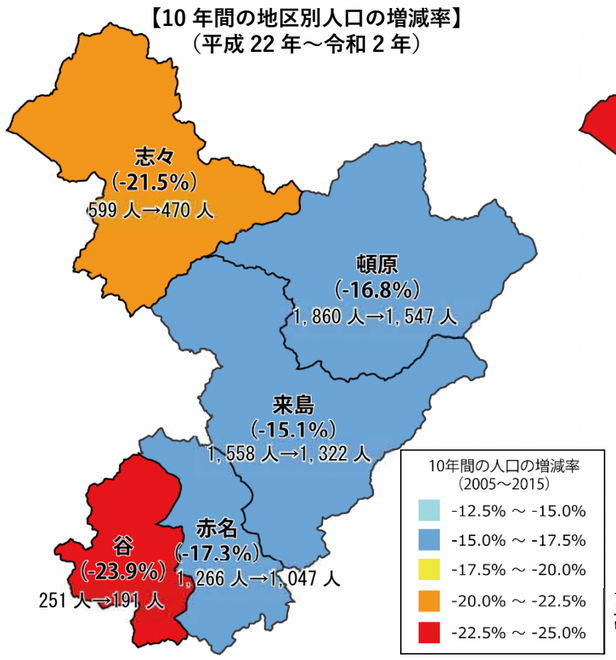


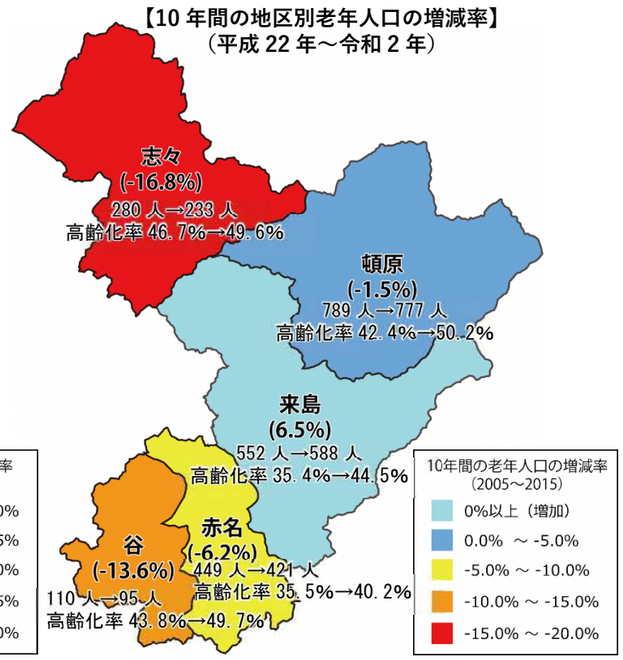
■地区別の人口推移

●飯南町で人口が集積しており、地区人口が 1,000 人を超える地区は、頓原（1,547 人）、来島（1,322 人）、赤名（1,047 人）の 3 地区となる。

●10 年間の人口の増減率を見ると、**全ての地区で 15%以上減少**しており、最も人口の減少幅が大きい谷で 23.9%減、最も減少幅が小さい来島でも 15.1%減少している。

●高齢化率は**全ての地区で 40%を超えており、最も低い赤名でも 40.2%**となっている。**来島を除く全ての地区で老年人口の減少**が始まっている。





■飯南町の現状

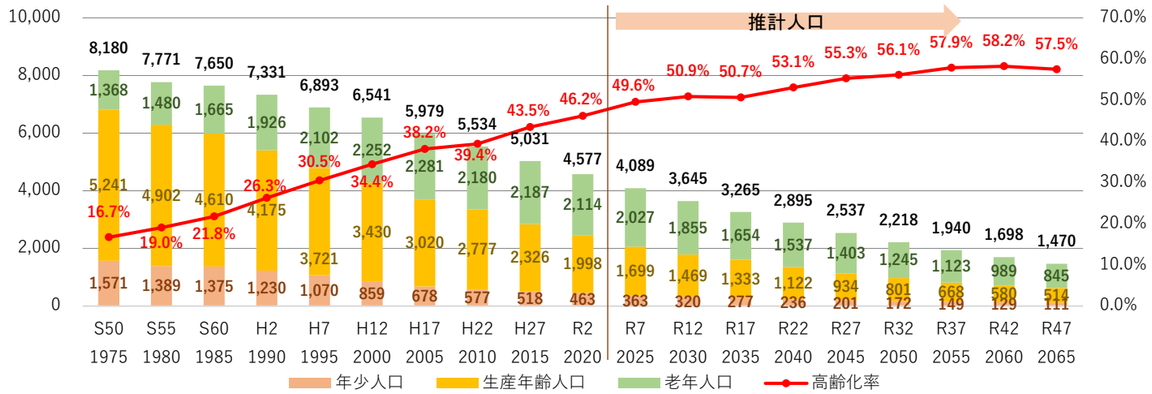
（2）飯南町の将来人口予測

■将来の人口状況（社人研推計結果）

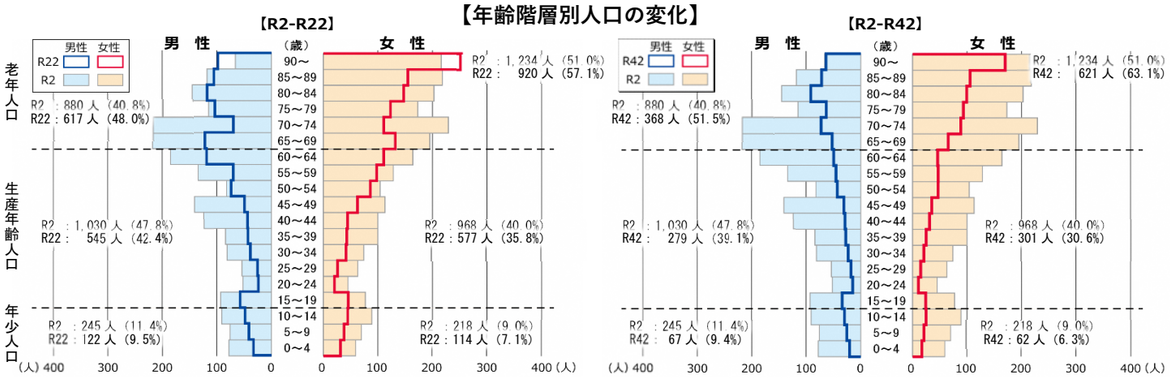
●2020 年以降も減少を続け、**2040 年には 2,895 人、2060 年には 1,698 人**になるものと推計されている。
●年齢 3 区分人口の推計を見ると、**2020 年の人口と比較**し、**2040 年**には**年少人口は約 5 割、生産年齢人口は約 4 割減少**し、236 人・1,122 人に、**老年人口は 3 割減**の 1,537 人に、**高齢化率は 53.1%**となる。
●**2060 年**にはさらに減少が進み、**年少人口と生産年齢人口は 7 割減少**し、129 人・580 人に、**老年人口は約 5 割減**の 989 人に、**高齢化率は 58.2%**となる。
●**人口減少の段階**※を見ると、**現在は**老年人口が微減傾向にある**第 2 段階**にあり、令和 12 年から老年人口が減少傾向になる**第 3 段階に移行**していくと予測されている。

※人口減少段階について
一般的に「第 1 段階：老年人口の増加（総人口の減少）」「第 2 段階：老年人口の維持・微減（減少率 0%以上 10%未満）」「第 3 段階：老年人口の減少」の 3 つの段階を経て進行するとされています。
飯南町においては、平成 22 年以降老年人口が維持・微減で推移しており、現状で既に「第 2 段階」にあります。

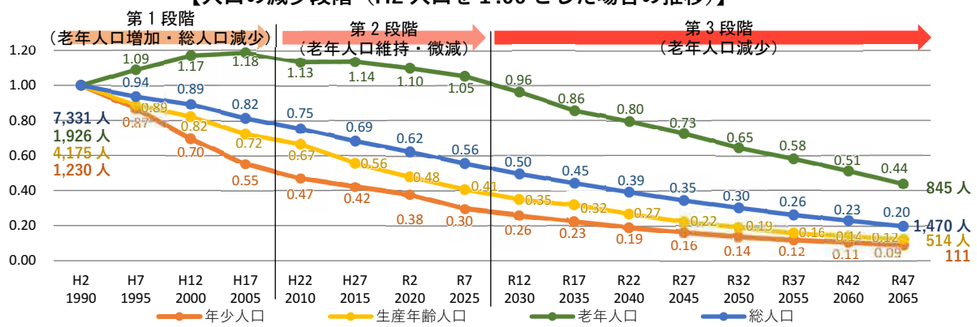
【年齢 3 区分人口と高齢化率の将来予測】



【年齢階層別人口の変化】



【人口の減少段階（H2 人口を 1.00 とした場合の推移）】

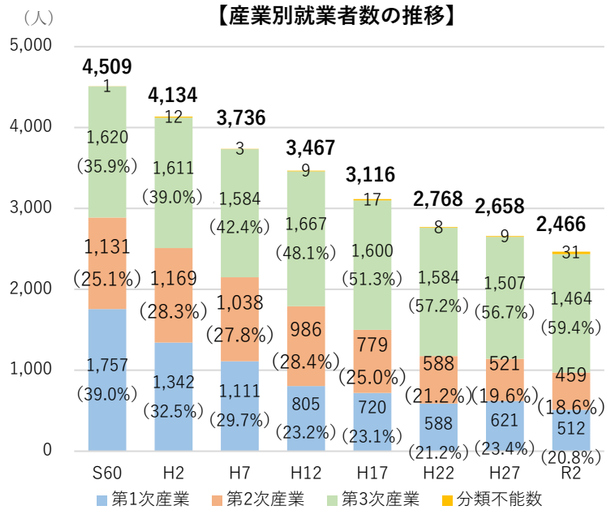


（3）飯南町の産業構造

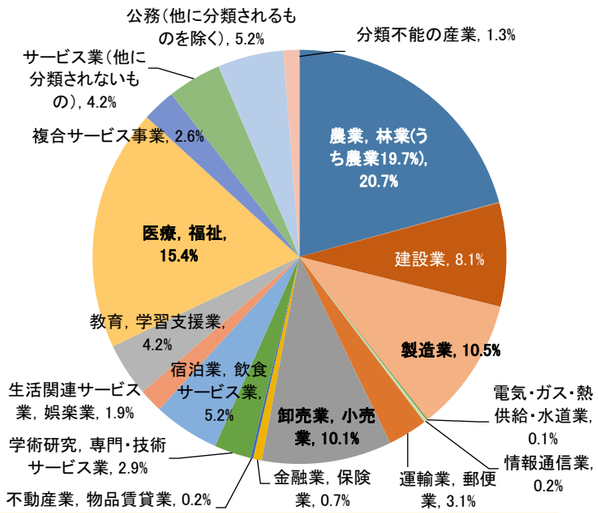
■産業別就業者数の状況

●飯南町の就業者総数は 2,466 人で、その内訳は**第一次産業が 512 人（20.8%）、第二次産業が 459 人（18.6%）、第三次産業が 1,464 人（59.4%）**となっている。
●昭和 60 年からの推移をみると、就業者総数は一貫して減少傾向にある中で第三次産業の就業者数は 1,600 人前後で横ばい傾向であったが、平成 17 年以降は減少傾向にある。**第一次産業、第二次産業は減少を続けそれぞれ 7 割減、6 割減**となっている。
●産業中分類別の就業者数割合をみると、**農業が最も高く 19.7%、次いで医療・福祉 15.4%、製造業 10.5%、卸売業・小売業が 10.1%**となっている。

【産業別就業者数の推移】



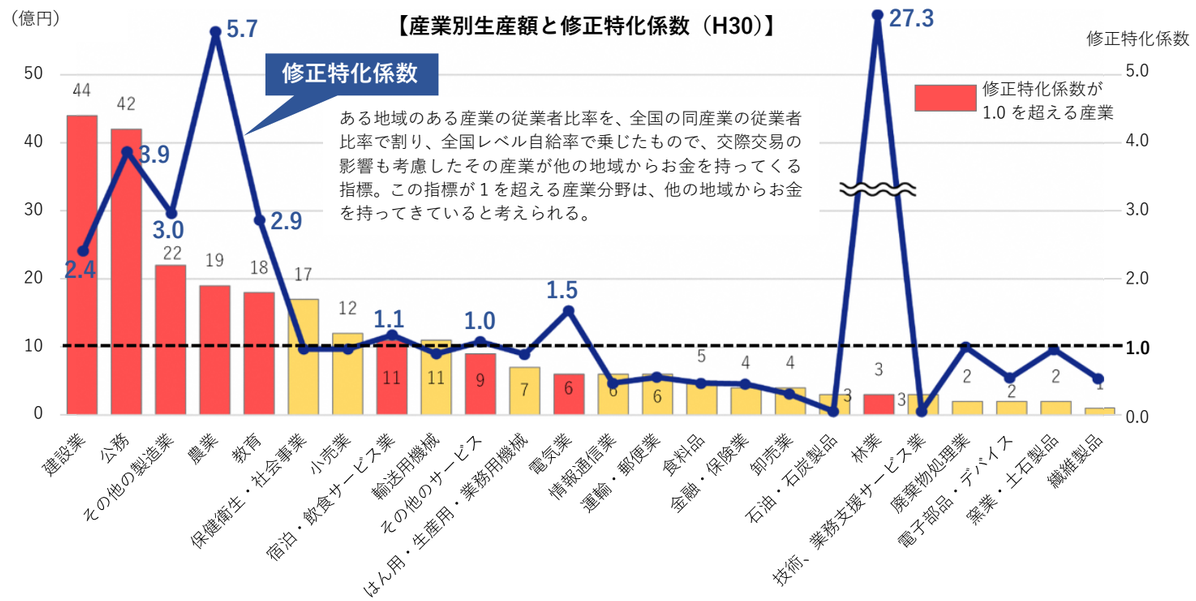
【産業中分類別就業者数割合（R2）】



■産業別生産額と修正特化係数の状況

●平成 30 年の飯南町の生産額は 263 億円となっている。
●**最も生産額が高い産業は建設業で 44 億円、ついで公務 42 億円**、その他製造業 22 億円となっている。
●**就業者数割合で 8.1%の建設業、5.2%の公務での生産額が町の総生産額の 33%**を占めている状況にある。
●修正特化係数が 1.0 を超える産業（**基盤産業**）は 10 分野で、林業 27.3、**農業 5.7、公務 3.9、その他製造業 3.0** が高くなっている。ただし、林業は就業者数と生産額が低くいことに留意が必要。

【産業別生産額と修正特化係数（H30）】

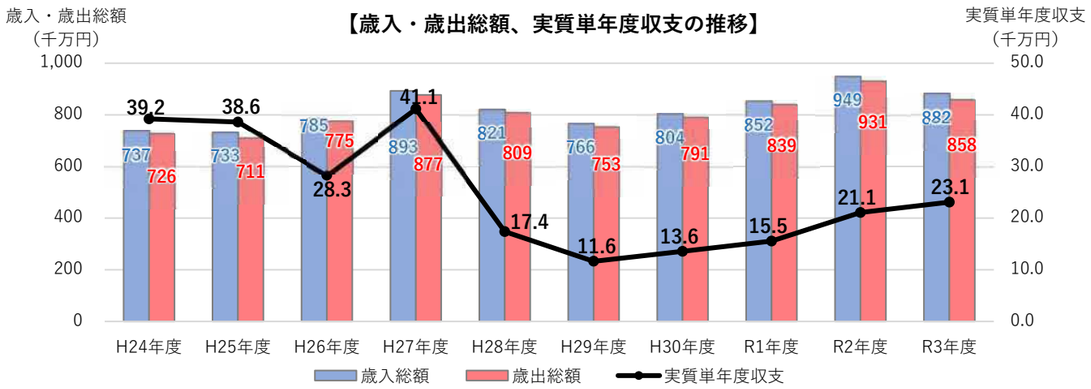


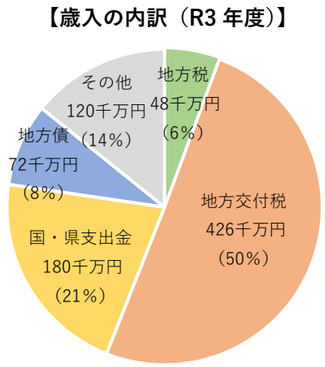
■飯南町の現状

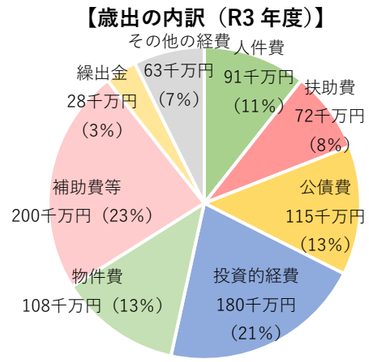
（4）飯南町の財政状況

■歳入・歳出と収支の状況

●飯南町の財政状況を見ると、歳入が歳出を上回る状況で推移し、**令和 3 年度は歳入 88 億 2 千万円、歳出 85 億 8 千万円**となっている。
●令和 3 年度の歳入内訳を見ると、歳入総額のうち、**地方交付税の占める割合が 50%**と最も高く、次いで国・県支出金の 21%となり、**地方税の占める割合は 6%**となっている。
●歳出の内訳では、人件費・扶助費・公債費の義務的経費が 32%を占めており、中でも公債費の占める割合が 13%と高くなっています。

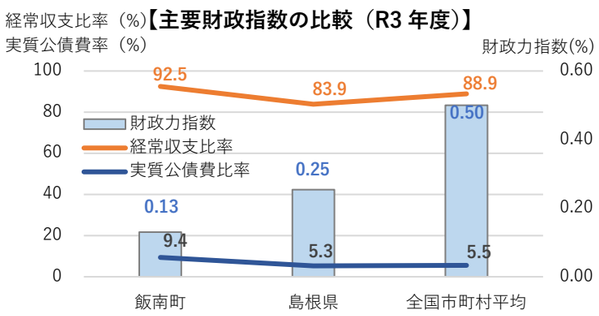


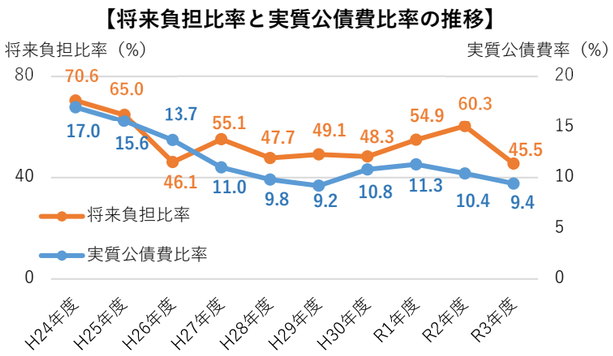




■財政状況の評価

●主要財政指数について、財政力指数は、島根県、全国平均を大きく下回っている。
●経常収支比率は令和 3 年度時点で 92.5%であり、島根県、全国平均を上回っている。
●実質公債費率は、平成 24 年度に 17.0 であったものが、年々と改善していき令和 3 年度には 9.4 となったが、依然として、島根県、全国平均を上回っている。





財政指標の分析

指標	指標の内容	飯南町の値
実質単年度収支	実質単年度収支は、単年度収支に黒字要素となる基金（貯金）積み立て額等を加え、赤字要素である基金（貯金）引き出し額を差し引いたもの。 単年度収支は黒字でも、実質単年度収支が赤字なら、それは貯蓄の取り崩しなどにより資金をやりくりしていることになる。	**令和３年度：2.3億円** 【参考】 赤字の町村数127(13.7%)
財政力指数	財政力指数は、財政の自主性をみるもので、1に近いほど、あるいは1より大きければ大きいほどよい。財政力指数が、1を超えると、自立して財政運営を行えるとなり、交付税が交付されない。	**令和3年度：0.13** 【参考】 全国市町村：0.50 県内町村：0.16
経常収支比率	経常収支比率は、財政の柔軟性を示すもので、低ければ低いほどよいとされる。例えば、経常収支比率が70%の場合、残り30%が、柔軟に使えるお金となる。一般的には、80%以下がよいとされているが、現在、全国的に財政が厳しいため、80%を超える団体がほとんどとなっている。	**令和3年度92.5%　市町村** 【参考】 全国市町村：88.9% 90%以上の市町村数364(21.2%)
実質公債費比率	実質公債費比率は、標準的な収入（標準財政規模）に占める実質的な公債費（借金返済額）の割合で、比率が低ければ低いほどよい。18%を超えると、新たに借金をしようとする場合、県の許可が必要となる。 （言い換えれば、借入金等の返済額が、年収に対して何割程度になるのかを示すもの。）	**令和3年度：9.4%** 【参考】 早期健全化基準25% 全国町村：5.5% 10%未満の町村数691(74.6%)
将来負担比率	将来負担比率は、一般会計等が抱える実質的な負債の残高が、標準的な収入（標準財政規模）に対してどのくらいの割合になるのかを示す指標。 （言い換えれば、借入金等の負債残高が、年収に対して何割程度になるかを示すもの）	**令和3年度45.5%** 【参考】 早期健全化基準350%

（5）飯南町の現状　とりまとめ

項目		飯南町の現状
人口	人口の推移 年齢階層別の変化	・総人口は**4,577人**。平成22年からの**10年間で1,000人減、昭和50年からは44%減少** ・少子高齢化の進展により、令和2年には、**生産年齢人口を老年人口が上回り**、年少人口463人（10.1%）、生産年齢人口1,998人（43.7%）、老年人口2114人（46.2%）
	合計特殊 出生率	・平成25～29年の数値は**1.74**。島根県平均1.72を上回っているが**県内19市町村のうち10番目**の値
	人口動態	・自然動態：一貫して自然減。**近年は出生数20人、死亡数100人前後で推移** ・社会動態：大幅に改善し、**直近5年間で－7人。県内でも4番目に高い値**
	地区別の人口 推移	・平成22年～令和2年の**10年間で、全ての地区で15%以上人口が減少** 最も減少したのは谷（23.9%減）、最も減少幅が小さいのは来島（15.1%減） ・**高齢化率は全ての地区で40%を超え**、最も高い谷で49.7%、低い赤名でも40.2%
将来人口 予測	将来の 人口予測	・人口は減少し続け**2040年に2,895人、2060年に1,698人**と推計される ・2040年の高齢化率は53.1%、2060年は58.2% ・**令和12年からは老年人口も減少傾向**となる人口減少の**第3段階**へ移行
産業	産業別 就業者数	・就業者数は2466人、**第三次産業の就業者数が最も多く1,464人（59.4%）** ・中分類で見ると**「農業」が最も多く19.7%、次いで「医療・福祉」15.4%、「製造業」10.5%、「卸売業・小売業」が10.1%**
	産業別生産額	・総生産額は263億円。**最も生産額が高い産業は「建設業」で44億円、ついで「公務」42億円** ・**就業者数割合で13.3%の「建設業・公務」が町の生産額の33%を占めている** ・修正特化係数が高い産業は林業27.3、**農業5.7、公務3.9、その他製造業3.0**
財政	歳入・歳出 ・収支	・令和3年度は歳入88億円、歳出86億円規模 ・実質単年度収支は23.1億円で、**黒字を維持している**
	財政状況 の評価	・財政力指数：**0.13で**全国市町村平均0.50、**県内の町村平均0.16を若干下回っている** ・実質公債費率：**平成24年度に17.0%であったものが、9.4%まで改善**しているが、全国町村平均5.5%を上回っている。（数字が小さいほど良い状況） ・将来負担比率：45.5%で早期健全化基準の350%を大きく下回っている ・全国市町村平均と比べると悪い状況の指標もあるが、**早期健全化基準に抵触する指標はなく**、健全な財政状況となっている